

一般会計支出

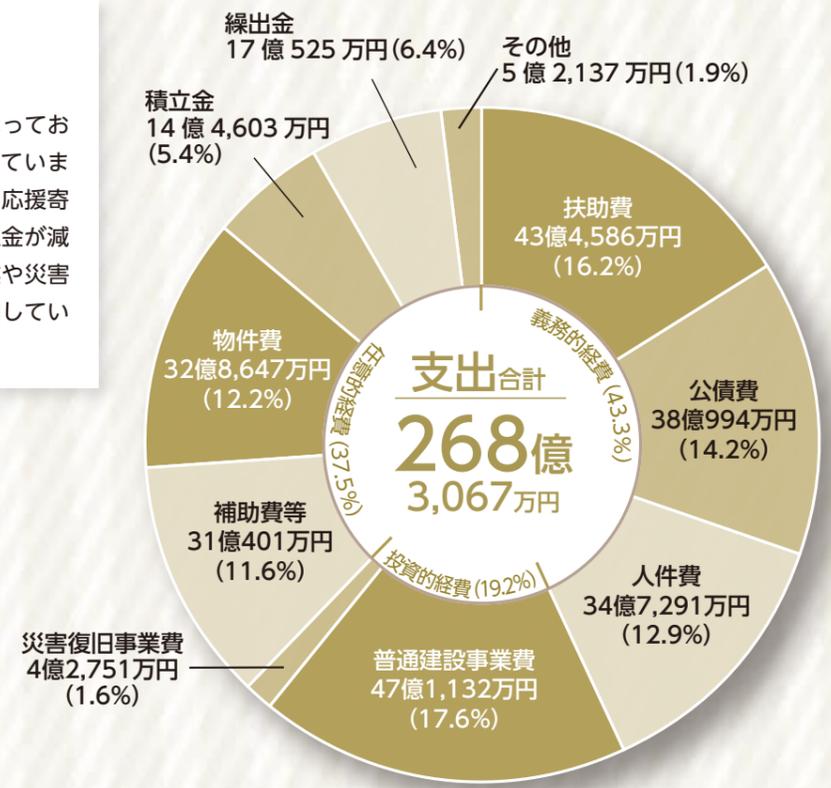
義務的経費は43.3%

歳出決算額は、268億3,067万円となっており、前年度に比べて0.1%の微増となっています。性質別で見ると、「やらんば！平戸」応援寄附金が前年度を下回ったことに伴う積立金が減少した一方で、地域情報化基盤整備事業や災害復旧事業などの投資的経費が大きく増加しています。

目的税の使いみち

区分	決算額
入湯税	
鉾泉源の保護管理施設整備	463万円
観光施設の整備	189万円
観光振興	2,337万円
都市計画税	
市債償還(都市計画関係)	4,989万円

◎支出の内訳グラフ(性質別)



平戸の財政状況

市では、毎年2回「市の財政状況」を公表しています。今回は、平成29年度決算の概要と平成30年度上半期の執行状況についてお知らせします。
 問 企画財政課財政班 ☎内線2343

決算報告

3億9,239万円の黒字

平成29年度の一般会計の決算額は、収入が273億5,089万円、支出が268億3,067万円となり、平成30年度への繰越事業の財源を差し引いた実質収支は3億9,239万円の黒字となりました。

◎決算の状況(一般会計)

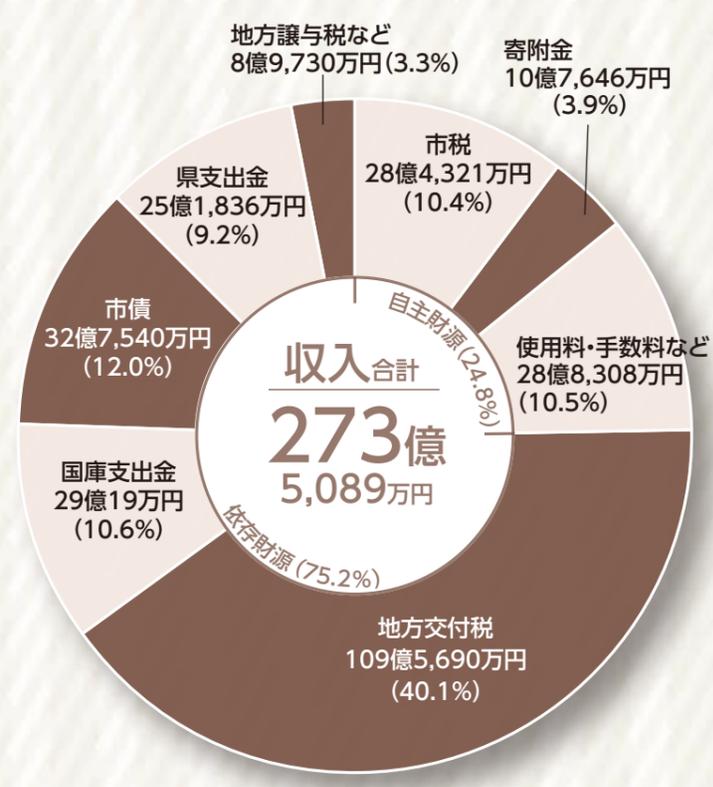
区分	平成29年度	平成28年度	対前年度増減額
歳入総額	273億5,089万円	273億6,600万円	△1,511万円
歳出総額	268億3,067万円	268億960万円	2,107万円
差引額	5億2,022万円	5億5,640万円	△3,618万円
翌年度に繰越すべき財源	1億2,783万円	1億6,600万円	△3,817万円
実質収支	3億9,239万円	3億9,040万円	199万円

一般会計収入

市の自主財源は24.8%

歳入決算額は、273億5,089万円となっており、前年度と比較して0.1%の微減となっています。収入の内訳としては、市税や県支出金が増加した一方で、臨時福祉給付金事業の減少による国庫支出金や「やらんば！平戸」応援寄附金が減少しています。また、このうち市税などの自主財源は全体の24.8%、地方交付税などの依存財源は75.2%を占めており、地方交付税などに大きく依存した財政構造となっています。

◎収入の内訳グラフ



■市税の内訳

区分	金額	増減率
市民税	11億6,597万円	1.8
固定資産税	12億6,293万円	3.2
軽自動車税	1億1,893万円	4.3
市たばこ税	2億1,559万円	△1.3
入湯税	2,989万円	29.1
都市計画税	4,989万円	6.0
合計	28億4,321万円	2.6

市民1人当たりの支出額

平成29年度に各分野で支出した金額を、市民1人当たりに換算すると

84万2,910円が使われました
 ※平成30年3月31日現在の人口で計算

民生費 21万1,895円 (対前年度3,866円の増) 高齢者や児童の福祉など	総務費 15万6,166円 (対前年度7,074円の減) 全般的・租税に関する事務など	公債費 11万9,693円 (対前年度3,933円の減) 借入金の返済	衛生費 8万2,205円 (対前年度11,333円の減) 病気予防やごみ・し尿処理など	教育費 7万170円 (対前年度6,495円の増) 学校や図書館、文化振興など
農林水産業費 6万4,495円 (対前年度10,162円の増) 農林水産業の振興など	土木費 6万1,185円 (対前年度5,478円の増) 道路、住宅の整備など	消防費 2万5,690円 (対前年度332円の増) 消防、防災対策など	商工費 2万2,632円 (対前年度528円の減) 商工、観光の振興など	その他 2万8,779円 (対前年度13,670円の増) 議会運営、災害復旧など

移住定住の促進

— まちをつくるプロジェクト —



コミュニティ推進事業・・・1億643万円

地域住民が一体となって、地域課題に取り組む「まちづくり運営協議会」の設置および支援により、市民自らが考え実践する住民自治の推進を図りました。

移住定住環境整備事業・・・3,680万円

本市に移住・定住される人に対して支援を行い、人口減少の抑制を図りました。

スポーツ推進事業・・・1,802万円

市民がスポーツに関わる機会を充実化するため、体育協会および体育振興会、スポーツ少年団などへの支援を行い、総合的に市民1スポーツの推進を図りました。

子育て支援

— ひとをそだてるプロジェクト —



地域子ども・子育て支援事業・・・6,511万円

子ども・子育て支援法の規定に基づき、延長保育や放課後児童クラブなどの各種事業に補助を行い、子ども・子育て支援を推進しました。

保育対策総合支援事業・・・249万円

保育士の業務負担軽減を目的として、保育補助者を雇用する保育所を支援することで、保育士の離職防止と人材の確保を図りました。

ICT教育推進整備事業・・・2,946万円

児童生徒の理解力向上および校務の効率化を図るため、学校、児童生徒の実態に応じたICT教育環境の整備を行いました。

その他の主要な事業



療育支援センター移転整備事業・・・6,587万円

療育支援センター「あったかさん21」の施設を、旧自然休養村センターを改修整備して移転しました。これにより施設の充実、利用者増が見込まれます。

地域情報化基盤整備事業・・・3億9,610万円

情報通信格差是正のため、民設民営方式にて高速通信網の整備を行う事業者へ補助を行いました。

ふるさと応援寄附金推進事業・・・4億9,829万円

ふるさと納税のPRや寄附者に対するお礼の品の発送などを行いました。また、平成29年度の寄附額は10億7,380万円となりました。

平成29年度に実施した主要な事業

昨年度、平戸市が実施した事業の中から、特に大きな事業（主要事業）を紹介

平戸市の主要事業とは

平成27年度から平成31年度までの5年を期間とした「平戸市総合戦略」を策定し、人口減少抑制と地方創生を図るため「しごと」「ひと」「まち」をキーワードとした4つの基本目標を設定し、その目標の達成に向けて、各種事業を推進しています。



雇用促進

— しごとをふやすプロジェクト —



中小企業振興対策事業・・・1億8,771万円

中小企業者などの経営安定による地域経済の活性化を図るため、中小企業者に対する融資制度や各種団体などへの支援を行うことにより事業活動の活性化を図りました。

創業支援対策事業・・・3,214万円

市内で新たに創業をする人の支援を行うことにより、地域経済の活性化と雇用の創出を図りました。

工業団地整備事業・・・1億1,544万円

企業誘致を行い、雇用を多く生み出すため、その受け皿となる新たな工業団地を田平町古楯地区に平成30年度末を分譲開始予定として整備します。

産業の振興

— しごとをのばすプロジェクト —



平戸もようかる農業実現支援事業・・・9,531万円

担い手の確保・育成、園芸振興、肉用牛振興を3つの柱とし、就農や施設整備、繁殖雌牛や肥育素牛の導入などに対する支援を行いました。

地域重要資源維持・回復支援事業・・・996万円

「地域重要資源」として「ヒラメ」「カサゴ」「クロアワビ」「ナマコ」を、各漁協・漁業者と連携して適正に放流を行い、水産業の持続可能性を高め、漁業所得の安定化を目指します。

平戸ブランド戦略的プロモーション・・・2,700万円

平戸製品の認知度向上と販路・取引の拡大のため市内の生産業者や関係団体と連携し、首都圏をはじめ関西圏、福岡都市圏において積極的なプロモーションを行いました。

◎一般会計(収入)

区分	予算現額	収入済額
市 税	27億7,470万円	10億6,709万円
地方交付税	104億円	69億3,351万円
分担金・負担金	1億5,107万円	5,085万円
国庫支出金	26億2,750万円	1億1,549万円
県支出金	23億5,750万円	2億7,997万円
寄 附 金	15億2,059万円	1億2,705万円
市 債	26億7,720万円	0円
そ の 他	49億9,489万円	10億3,432万円
収入合計	275億345万円	96億828万円

◎一般会計(支出)

区分	予算現額	支出済額
総 務 費	56億8,060万円	11億5,432万円
民 生 費	68億7,625万円	25億 191万円
衛 生 費	27億2,393万円	13億5,377万円
農林水産業費	19億3,239万円	4億9,802万円
土 木 費	18億 750万円	2億9,007万円
教 育 費	18億5,097万円	7億3,294万円
公 債 費	39億6,234万円	15億 456万円
そ の 他	26億6,947万円	9億 148万円
支出合計	275億345万円	89億3,707万円

◎特別会計

区分	予算現額	収入済額	支出済額
国民健康保険(事業勘定)	47億9,762万円	19億2,555万円	17億6,373万円
国民健康保険(度島直診勘定)	7,720万円	1,004万円	3,470万円
国民健康保険(大島直診勘定)	1億 500万円	1,615万円	4,207万円
後期高齢者医療	4億4,780万円	1億2,447万円	1億3,386万円
介護保険(保険事業勘定)	46億1,820万円	18億3,345万円	17億6,968万円
介護保険(サービス事業勘定)	3,592万円	1,288万円	1,471万円
農業集落排水事業	1,722万円	101万円	525万円
宅地開発事業	401万円	1,109万円	122万円
あづち大島いさりびの里事業	1,191万円	6万円	613万円
電気事業	1,501万円	888万円	250万円
駐車場事業	440万円	222万円	340万円
工業団地事業	2億8,199万円	167万円	0万円

◎企業会計

区分	予算現額	収入済額	支出済額	
水道事業	収益的収支	9億4,872万円	3億7,045万円	2億1,594万円
	資本的収支	8億2,704万円	6,125万円	4億7,682万円
病院事業	収益的収支	24億4,222万円	11億 249万円	10億9,388万円
	資本的収支	2億6,299万円	5,049万円	8,588万円
交通船事業	収益的収支	1億7,861万円	7,545万円	6,680万円
	資本的収支	5億1,416万円	0円	2億5,259万円

※収益的収支・・・経営活動によって発生するすべての収入と支出
 ※資本的収支・・・施設の建設改良に関する投資的な収入と支出

◎市債の残高
(市民1人当たり105万1,446円)

※平成30年9月30日現在人口31,831人で計算

区分	残 高
一般会計	265億2,553万円
水道事業	57億8,021万円
病院事業	10億4,730万円
交通船事業	1億3,790万円
国民健康保険(直診勘定)	9,655万円
農業集落排水事業	7,097万円
工業団地事業	1億8,336万円
合 計	338億4,182万円

◎財産の状況

区分	面積・金額
土 地	993万1,667㎡
建 物	25万3,859㎡
有価証券	1,355万円
基 金	132億7,382万円
債 権	4億7,523万円
出 資 金	6,468万円
出 捐 金	1億 14万円

◎一時借入金の状況

平成30年9月30日現在は、ありませんでした。

執行状況

平成30年度上半期(4月~9月)

平成30年9月30日現在

収入および支出の状況

※企業会計とは・・・

民間企業と同じようにその仕事自体に収益があり、その収益で支出を賄う仕事をまとめた会計です。

企業会計

水道事業			
収益的収支	収 入	10億2,769万円	
	支 出	9億2,140万円	
資本的収支	収 入	8億5,938万円	
	支 出	12億5,290万円	

病院事業			
収益的収支	収 入	23億7,172万円	
	支 出	23億 696万円	
資本的収支	収 入	1億7,541万円	
	支 出	2億4,142万円	

交通船事業			
収益的収支	収 入	1億9,528万円	
	支 出	1億9,528万円	
資本的収支	収 入	3億 643万円	
	支 出	3億2,416万円	

※収益的収支・・・経営活動により発生するすべての収入と支出
 ※資本的収支・・・施設の建設改良に関する投資的な収入と支出

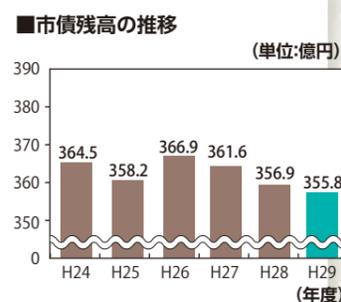
※特別会計とは・・・

国民健康保険は国民健康保険税、介護保険は介護保険料など、特定の収入で特定の支出を賄う仕事をまとめた会計です。

特別会計

区分	収 入	支 出
国民健康保険(事業勘定)	56億9,729万円	56億9,146万円
国民健康保険(度島直診勘定)	7,529万円	7,529万円
国民健康保険(大島直診勘定)	1億 9万円	1億 9万円
後期高齢者医療	4億3,835万円	4億3,664万円
介護保険(保険事業勘定)	43億 821万円	42億5,258万円
介護保険(サービス事業勘定)	3,293万円	3,293万円
農業集落排水事業	1,494万円	1,494万円
宅地開発事業	2,231万円	2,231万円
あづち大島いさりびの里事業	1,343万円	1,343万円
電気事業	1,874万円	1,874万円
駐車場事業	708万円	708万円
工業団地事業	1億1,544万円	1億1,544万円

市債残高(全会計)



市債残高は1億1千万円の減少

市の借入金である市債の残高は、継続的な繰上償還の実施により減少を続けています。今後も計画的な繰上償還の実施によりさらなる財政の健全化に努め、将来の公債費負担の軽減を図ります。

健全化判断比率と資金不足比率

すべてにおいて基準内の財政状況

平成19年に制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」により、毎年、健全化判断比率などを算定し、議会・市民に報告・公表しています。

平成29年度決算に基づく比率(指標)は、前年度と同様にいずれも国の基準(イエローカードとされる早期健全化基準)を下回り、財政状況は、おおむね健全であるといえます。各指標の改善は、平成19年度から実施している借入金(市債)の繰上償還によるところが大きく影響しており、今後も行財政改革の取り組みを継続し、引き続き健全な財政運営に努めます。

健全化判断比率	説 明	平成29年度	平成28年度	国の基準	
				早期健全化基準(イエローカード)	財政再生基準(レッドカード)
実質赤字比率	一般会計などの赤字から財政運営の深刻度を見る指標	-	-	12.90%	20.00%
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る指標	-	-	17.90%	30.00%
実質公債費比率	借金の返済額の大きさから資金繰りの危険度を見る指標	6.3%	6.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	市が抱える負債の残高から将来の財政への圧迫度を見る指標	-	-	350.0%	-

※比率が生じない場合は「-」と表示しています。

資金不足比率	説 明	対象会計	平成29年度	平成28年度	国の基準
					経営健全化基準(イエローカード)
-	公営企業の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る指標	水道事業・病院事業・交通船事業ほか	-	-	20.00%

※いずれの会計も資金不足が生じていないため「-」と表示しています。

財政指標

平戸市の財政状況を考える

— お金をかけずに事業に取り組む鍵は、汗をかけ【汗と筋肉は裏切らない】 —

ゼロ予算事業で平戸市をビルドアップ

平戸市職員の若手K・O・Iの筋肉三銃士は、財政担当のパーソナルトレーナーのDと日課の筋トレをしながら、平戸市の財政状況についてどうしたら良くなるかを日ごろから考えています。

そこで、ひらめいたゼロ予算事業。人口減少・少子高齢化の時代における、平戸市の新たな事業への取り組みについて、筋トレしているところにお邪魔して話を聞いてみました。



I 予算が無い状況でも、地域の清掃活動やノーマイカー通勤市民パソコン相談など、職員が努力とアイデアで実現できることはたくさんあるという考え方なんだ。

K 確かに、お金をかけないでも出来ることもあるけど、でもやっぱりお金をかけたほうがもっと良いものができるような気がしますよね。

O 今やっている事業を拡大したり、内容を濃くしたりしようとする、必然的にそうなりませんか？例えば、今年世界遺産に登録された構成資産の整備とか。



D さあ、今日もしっかり筋トレして、美しく動けるキレイのボディを手に入れるぞ。筋肉は裏切らないから。目指せ、筋肉の自主財源100%のパーフェクトボディ。

全員 お〜(Dトレーナー、今日はいつになく気合入ってるな)



D 2人が言うことは、ごもつともだ。だからこそ、どこにお金をかけて、どこの部分を削減してというのが必要になる。例えば、サッカー選手なのに、脚の筋肉を鍛えない人はいないよな。アスリートであれば、当然自分の競技に関係する筋肉は重点的に鍛えるわけだ。なるほど、そこにゼロ予算事業のようなものを織り交ぜて行って、よりよい平戸市につながるっていいことですね。

O ゼロ予算事業による効果は？

D 栃木県の足利市や、雲仙市な

O そういえば気になったんですけど。

D ん？どうした？

O 筋トレの器具って、そろえようとするとなかなかの値段がかかりますよね、つまり何でもかんでもそろえられるって訳じゃない。自分たちが働いている平戸市の状況も同じなのかなって。

I 自分もそう思います。こういう環境で運動できるのは、時間、場所、お金が提供されて初めて実現できるんだなって。平戸市の場合はどうなんですかね。

K もちろん筋トレと同じで、器具やお金をかければ良い設備で、いい運動ができると思うよ。でもランニングや腕立て伏せのように、器具を使用しなくても、体を鍛えることは



どが既にこの事業を実施している、市民サービスの向上、経費節減だけでなく、職員のモチベーションアップやチャレンジ精神の高揚などにも成果があったとのことだ。筋トレも一緒に、自分の限界を超えるトレーニングをすることで、より鍛えられる。予算がないから出来ないとか、器具がないからとあきらめるのではなく、どうしたら出来るかという考えをもつことが、筋肉にも事業にも良いということだな。まだ全員、余裕があるみたいだから、限界を超えられるよう腕立て300回追加！

全員 え〜鬼のDトレーナーの心に火がついた〜。明日は、筋肉痛確定だなこりゃ。



できるはずだ。そういった柔軟で市民サービスの向上を目的として、発想した取り組みが、ゼロ予算事業になるんだ。

全員 ゼロ予算事業？

D ゼロ予算事業って何？

D そもそもゼロ予算事業とは、



平成31年度へ向けての取り組み

D ここまで自分たちの筋肉談話に付き合ってくれてありがとうございます。平戸市は今、平戸市未来創造羅針盤という未来に向けての重点目標を立てています。各事業の目標を見据えて遂行していく中で、どの事業にどれだけのお金をかけられるかは決められています。

全員 自分たちが、市民が誇りをもてる平戸市を目指して、お金をかけず汗をかく、ゼロ予算事業をこれからは実施していきたいと思えます。